

NEW ASUMA

Vol.2

通刊 17号

三菱農業機械はずっと愛される製品とサービスで、
“食”を支える農業の発展に尽くしてまいります。

アグリビジネス最前線 有機肥料+無農薬栽培で高付加価値化 私企業が単独で米のブランド化を実現
ユーザー紹介 USER'S FILE 新潟県小国町/真木農産・新潟県新潟市/桐沢担い手生産組合
NEWマシーン紹介 New Machinery コンバイン/ディスクハロー/田植機
ASUMA掲示板 農業におけるSDGsのススメ
ごはん賛歌 歌手・三山ひろし

新潟/笹寿司



三菱農業機械

～ Long Life ～ 人も道具も、長く強く。

有機肥料+無農薬栽培で高付加価値化

私企業が単独で 米のブランド化を実現する



米農家にとっても、「販売」が重要になっています。本誌前号でもご紹介したように「良い作物さえ作ればそれで良い」という考え方は、もはや過去のものとなっています。現在は、良い作物を作るのは大前提ですが、それを「いかに売るか」が大切になっています。そこでここでは、独自の栽培方法と販路を確立することで、米のブランド化を私企業が単独で成功した事例として、新潟県南魚沼市の水稲農家・関農園をご紹介します。

ブランド米は産地で取組むもの？ 単独でもブランド化できる

政府が5年ごとに発表している「食料・農業・農村基本計画」を遡って読み解くと、農林水産物や食品は気象・自然条件や歴史・文化といった地域性を強みにできるため、わが国の農業政策においてブランド化は、6次産業化や地方活性化とがセットで語られてきたことがわかります。ところが、米は主食であるため全国各地で幅広く生産されており、個人・私企業でブランド化するにはライバルが多過ぎます。また、米の消費量は減少傾向にあるとは言え、ブランドを確立するには一定程度の量が必要になります。そのため「米のブランド化は個人（私企業）ではなく産地として取組むもの」と考えられています。

それでも、個人・私企業単独で米のブランド化に挑む例も見られます。それを陰から支えているのが、米・食味鑑定士協会が毎年開催している国内外最大のお米のコンクール『米・食味分析鑑定コンクール』です。今年で第22回を迎える同コンクールは、2018年実績で出品数5,700検体以上ですが、受賞者数はわずか145名という狭き門。ここで受賞することがブランド化への重要な一歩と考えられています。

日本一美味しい米をつくりたい その想いからブランド化を推進

取材させていただいた関農園は、米所として名高い新潟県南魚沼市の水稲専業農家です。産地としてのブランド化という意味では、南魚沼を含めた魚沼産コシヒカリは既に日本の頂点にあると言えます。農水省が今年6月に発表した『令和元年産米の相対取引価格・数量』速報値においても、新潟 コシヒカリ（魚沼）は全国で唯一の20,000円台となる20,941円（玄米60kg税込）でした。

ところが関農園の『令和元年度米 無農薬・無化学肥料栽培米(5kg)の販売価格は10,120円（税別、自社運営のオンラインショップ価格）です。産地としてブランド化に成功していたのに、どうして関農園では自社単独での米のブランド化を試みたのでしょうか？ 代表取締役の関智晴さんが教えてくれました。「私はプロのスノーボーダーとして活動していました。結婚して子供ができて暫くの間は、夏は稲作を手伝い冬はプロスノーボーダーという生活でした。ところが不思議なもので、次第に稲作の面白さに魅了されていきまして、いつの間にか『日本一美味しい米をつくりたい』という夢が出来ました。それで職業としてのスノーボーダーはスッパリ引退して、稲作一本に絞りました。今は日々どうすれば本当に美味しいお米ができるのかと自問自答しながら、試

行錯誤で楽しく米づくりに励んでいます。

当家は南魚沼市で長く続く米農家です。父の代から肥料にこだわり、農薬をなるべく使わない栽培方法を模索してきました。自家製のボカシ肥料を使い、管理している16haのうちの3haを無農薬、残りは減農薬で栽培しています。一方で、父や私のように手間暇を掛けて自家製肥料で農薬を使わずに育てても、JAに出してしまうと割に合いません。特別栽培米として扱ってもらっていたので幾分は高く買い取って頂けたのですが、それでも美味しさを追求した米づくりを続けるのは、このままでは厳しいな、と感じたのです」

経営を好転させるには、面積を広げるか、単価を上げるか、そのどちらかしか方法はありません。智晴さんが選んだのは後者。自社単独で米をブランド化して高付加価値化することでした。

ブランド化を推し進めた両輪 それは販路と美味しい米

そこで最初に始めたのは新たな販路開拓でした。JAから直販へと舵を切ったのです。「最初に当たったのは地域の感度の高いお土産物屋さん。最初は小さな話です（苦笑）。南魚沼は冬にはスキー客などが訪れます。そこでお土産物屋さんと交渉して、置いていただいたところ、『美味しい!』とリピーターになってくださるお客様が続出しました。すると置い

ていただける棚が増えて、そのうえ良く見られる場所に置かれるようになりました。また、妻を中心に運営する直売所も開設しました。

その時期に、自社で運営するオンラインショップも構築していました。お土産物屋さんで当園の名前を覚えて、直接ウチのネットショップに来て購入して頂ける、というB to Cの売れ方も増えて行きました。ホームページも兼ねたオンラインショップの構築は大変でした。実はPC操作が得意ではないにも関わらず凝り性なので、やるからにはしっかりしたものにしたかった。でも、湯水のようにお金を使うわけにもいきません。ですから、自分で出来ない骨格は外注してプロにお願いしましたが、農作業の合間に写真を撮影して、夜な夜なテキストを書いて、悪戦苦闘しながら自分達で作ったんですよ。もちろんSNSも使用しています。折に触れては稲の成長や作業の進捗、それに田んぼにいる生き物の様子をアップしています」。そこにはファンになってくれたお客様からのコメントも並んでいる。これも口コミ効果の一翼を担っているSNSのチカラだ。

美味しくて安心・安全 環境にも優しい米づくり

智晴さんが追求する美味しい米、『関家のこだわり米』も順調に評価されて行きました。『米・食味分析鑑定コンクール』国際大会で2014年から6年連続金賞（そのうち5回は国際総合部門金賞）を受賞。また、2016年から4年連続で『ギネス記録世界最高米』認定されたのです。そんな『関家のこだわり米』を特別なものにしているのはボカシ肥料です。

「当園で使用しているのは、有用微生物群で有機肥料を発酵、分解させたボカシ肥料です。自宅脇の作業場で、米ヌカを主体に魚粕、海藻、カニ殻を有用微生物群により発酵、熟成させて自作しているんですよ。ボカシ肥料を扱うのは本当に大変です。でも、ここで手を抜いてしまっは、関農園のお米を買ってくださるお客様を裏切ることになりますから、絶対に譲れません。

苗の生育中の肥料にもコダワっていて、全てボカシ肥料で育てています。苗づくりの苗箱に敷く床土も土とボカシと混ぜて、発酵させては攪拌、発酵させては攪拌……これを何度も何度も繰り返して、完熟になったボカシ床土に種を蒔き、健康な苗を作っているんです。苗半作という言葉がありますけど、それを愚直に行っています」と智晴さんは笑う。



味の追求だけでなく、農薬を極力使わない無農薬・減農薬での栽培も順調だ。「ボカシ肥料が土を豊かにしてくれることに気が付いたのです。

朝ウチの田んぼに行くと、もの凄い数のアキアカネがワッと一斉に飛び立つんですよ。6月下旬にはホテルを見ることもできます。そんな環境で米作りをしているうちに、いつの間にか、この南魚沼の水田と、ここに暮らす生き物を大切にしたいという想いに駆られまして……それで水田微生物や小動物など自然との共存が可能な環境保全型農業を始めたのです。

無農薬や減農薬でも、収量は悪くありませんよ。当園では田植えさえしてしまえば、その後ほぼ田んぼに入らなくても（除草作業をしなくても）8俵は獲れています」。

除草作業を効率化する秘密兵器 紙マルチ田植機とは

そんな関農園が今春新調したのが三菱農機の紙マルチ田植機だ。紙マルチ田植機とは、田植えと同時に田面に専用の再生紙を敷き詰めることで田面への日光を遮り雑草を抑制する、無農薬栽培に貢献するために開発された三菱独自の田植機である。

「無農薬や減農薬で栽培すると、とにかく除草作業が大変です。それまでは自分やスタッフも総出で、文字通り『地べたに這いつくばる』ように除草していたので、少しでも効率化出来たら……と思っていたのです。農作業で疲れ果ててしまいデスクワークにまで時間も身

体ももちません。その時、たまたま知り合いの農家さんが紙マルチ田植機を手放すという話を聞きつけて、最初は年季の入った中古を手に入れたのです。効果は明白でした。

除草に掛けていた時間と手間暇を大幅に減らすことができました。その結果、徐々に規模も拡大していますし、スタッフに任せられる仕事はスタッフに任せて、自分はその空いた時間を他の仕事に振り分けることができる。さらなる販路拡大やオンラインショップに力を入れたり、やりたかったのに手が回らなかった仕事に取組む時間ができました。まだまだこれからですが利益を出せる体制ができてきました。

規模拡大はそんなに目指していないんですよ（笑）。このご時世ですから頼まれることは少なくありませんが、無理して大きくする気はありません。まだ詳細は秘密ですが、直売所でちょっと面白いことをやってみようと思っています。ご期待ください（笑）。

この南魚沼でも、やっぱり農家が減っていて、高齢化も進んでいます。全国どこもそうだと思いますが、担い手が減っているのです。ですから私が成功することで、若い人達が農業に興味を持ってくれて、南魚沼の農業が盛り上がった嬉しそうです。栽培手法にこだわることで圧倒的な米の品質を実現し、それを評価してくれる販路を自ら確立した関農園は、「米のブランド化は私企業単独でも可能である」ことを示してくれています。

（文・川島礼二郎）



関 智晴さん（35才）

Profile 株式会社関農園 代表取締役

自然豊かな南魚沼で幼少期を過ごした智晴さんは高校生以降はスノーボードに熱中。プロスノーボーダーとして活動した。夏場に家業の稲作を手伝ううちに稲作の面白さに魅了され『日本一美味しい米をつくりたい』という夢を抱き農家に転身。美味しいお米づくりに邁進している。





新潟県新潟市西蒲区
(有)真木農産



田村潤一さん(67)

USER'S DATA

面積

稲作 50ha
〈品種〉●コシヒカリ
●新之助
●わたぼうし
●つきあかり

畑作 20ha
〈品種〉●麦 ●大豆
●枝豆 ●ブロッコリー
●トウモロコシ
●イチゴ ●ナスなど

保有機械

トラクタ GXK510XUV、GX511
GVK805MW
コンバイン V6120XJUM
VR6108XUDM
田植機 中苗ポット田植機
(他社2台)
その他 乾燥機4台
レーザーレベラ
バーチカルハロー
スタブルカルチ

米どころ新潟の広大な平野で70haの大規模複合経営

大規模経営の農家にとって最大の悩みは人手不足。
それを補うために、常に新しいことにチャレンジし、新開発の農機や
栽培システムにも注目して、効率化を図っています。
規模拡大をさらに推進したい、多様な作物栽培に取り組むと意欲的です。



弥彦山(正面)へ(株)真木農産さんの広大な耕作地が広がる

新潟平野のほぼ中央に位置するのが新潟市西蒲区。この地で代々米作りに励んできたのが真木農産の田村潤一社長です。40年前からここで米作りを続けてきた田村さんは、「このあたりは新潟県にしては雪が少なく、平坦なので農業、特に米作りには適しているのです」と胸を張ります。

まだまだ規模の拡大を目指していますので、効率が良い機械やシステムには常に興味を持ってチェックしています。

効率化や 低コスト化には敏感に

今年6月にも三菱農機販売の要望にこたえ、ラバータイプディスクハロー実演会のために1haのほ場を提供しました。

これには新潟県内各地から法人や担い手農家が集まり、実演に見入っていました。真木農産では麦を刈り取った後、すぐに大豆の播種を行うのですが、今まではロータリをかけていました。しかしそれでは非効率で、なんとかならないかと考えていました。そこで田村社長は三菱マヒンドラ農機のラバータイプディスクハローに注目、自ら進

んで実演会のためにほ場を提供したので

す。これをえば、ロータリの5倍もの速さで掘り起こし、麦稈を粉碎してくれるので、すぐに大豆の播種にかかれます。

自力で 少しずつ土地を改良

真木農産の耕地面積は70ha。そのうち50haで米を、残りで麦や大豆を作っています。ほかに枝豆やブロッコリー、トウモロコシなども栽培しています。

「ここは昔は水はけが悪く、米にはいいのですが、野菜はあまりできませんでした。しかし少しずつ土地を改良して、今ではどんな野菜も栽培できるようになりました」。その土地改良もやってもらったわけではありません。補助金をいただいて自力でやってきたのです。「ホダ木を集めてきて、地中に埋め、暗渠にして水を流したのです。こうして水はけをよくしたのです。これもすべて自分たちでやったのですよ」。苦勞の跡が偲べ

「イチゴ(越後姫)も20aで作っています



左から田村潤一社長・藤石淳子・長谷川豊・田村善一さん

がお陰様で好評です。果肉がやわらかく傷みが早いので、県外にまでは出荷できませんが、新潟市内などで販売しています。他に枝豆(新小平方茶豆)やトウモロコシなども直売場で販売しています。経営は米中心ですが広いほ場を効率よく使って、麦(はねうまもち)など多様な作物に取り組んでいます」。

高性能の農機で 人手不足を解消

真木農産には11人のスタッフ(臨時を含む)がいますが、規模が大きいのでそれでは人手が足りません。

「このあたりは後継者がいないので、離農が進んでいます。作業委託も増えていて、うちにも依頼が増える一方です。この地区では、30軒あった農家が今では9軒になってしまいましたからね。その分がうちに回ってきているのです」。

真木農産では4台の乾燥機で乾燥調製までしていますが、それでも作業は増える一方です。いくら人がいても足りないのに、後継者はむしろ減っているのです。「これが悩

みのタネですね。人手が確保できないので農機具を頼りにするしかありません。新しく性能のいい農機具が出てきたら、どうしても導入してしまいますね。

また、新しい農業には新しい情報が不可欠。SNSやネットには色々情報がありますので見逃さないよう努めています。

先のディスクハローも三菱さんのYou Tubeをチェックしました。詳しく知りたくて営業担当の伊藤さんに連絡したところ、実演してもらえることになりました。実際にブロッコリー栽培で使ってみると、従来よりはるかにパフォーマンスがよかったです。

大規模経営なので少しでも効率化が図れたり、低コスト化できる情報には敏感に反応しています」。

今後の真木農産の農業に注目が集まっています。



良寛の里

有名な良寛さんが生まれたのは越後の国(新潟県)の出雲崎。若いころに各地を旅してから越後に帰ってきましたが、実家には戻らず、国上山(くがみやま)に「五合庵」という小さな庵をかまえ、ここで暮らしました。良寛さんといえば誰もが思い浮かべる農家の子どもたちと遊んでいる光景は、国上山の麓の田園地帯だったのです。ここで子どもたちと遊び、詩を書き、短歌を作り、土地の人々に法話をした良寛さんは、やがて病を得て、この地で亡くなりましたが、彼の人柄をしのんで今でも全国から人々が訪れています。



担当セールスマン紹介



三菱農機販売(株) 新潟系統推進課
課長 伊藤信行

真木農産の田村社長とは長いお付き合いをさせていただいております。いつも田村社長の営農への情熱が我々にも伝わってきて、何かお手伝いをしたくなってしまう。社長は大変マルチに情報収集されていますので我々も遅れをとらないよう、日々努力をしています。



新潟県小国町
桐沢担い手生産組合



青柳良一さん(67)

USER'S DATA

面積

稲作.....30ha
〈品種〉●コシヒカリBL
●コガネモチ

保有機械

トラクタ GXK511XV
GA450XUVY9
コンバイン VS321GYKC
VY446SLYM
VY463SLYDM
田植機 LE80DF、LE60D



中山間地で30haのほ場を集め、代々の土地を守り発展させるために奮闘

新潟の中山間地で棚田などを集約して減農薬の米作りに励む生産組合。彼らの目標は、担い手を育て、この土地と農業を守っていくことにほかなりません。



生育中期の苗管理も怠らない青柳さん

新潟県の山間にある小国町の桐沢地区にあるのが「桐沢担い手生産組合」。同組合は2005年に結成され、組合員数は60人。現在2代目の代表をつとめる青柳良一さんはサラリーマンから転身された方ですが、父親が農家だったことから抵抗もなく入ることができたようです。

「ここは典型的な中山間地で、作業がやりにくいから、離農が進んでいます。でも、誰かが農業をやらないと田も山も荒れてしまって住めない土地になってしまいます。だから我々が先頭に立ってやっているのです」。

新潟県のコシヒカリBLでブランド化

中山間地ですから、ほ場は広くありません。おまけに棚田も多いため、作業は楽で

はありません。農機の移動だけでも一仕事なのです。そんな厳しい環境の中で、青柳さんたちはもち米を作って餅に加工したり、さつまいもを作ってチップに加工するなど、6次産業化にも取り組んでいます。

「でも、一反くらいしかやってないし、販売先の確保にも苦労しています。やっぱり中心になるのは米ですね」。

同組合が作っているのはコシヒカリBL。これは新潟県が独自に品種改良したもので、コシヒカリよりイモチ病に強いのが特徴です。



他県には出さず、県内だけで生産し、いわばブランド化しているのです。

「出荷は、ほぼ直売で多少JAや業者にも出荷。このあたりは正月になると皆餅を食べるので自家用としてコガネモチというもち米を作っています。組合では、切り餅まで加工して組合員に販売したり、注文出荷や直売所での販売をしています」。

千鳥植えを取り入れる溝切りをしっかりと

5年くらい前から組合で取り組んでいるのが千鳥植えという田植えの方法です。3haほどで試験的に栽培しています。

「これは田植えのときに間隔をあける植え付け方法。その名の通り、千鳥の足跡のように列から1株ずつ間引くのです。こうすることにより、株数が減りますから、苗も少なくて済みます。普通なら1反で18枚は必要なところを、ここでは13枚で済みますからね。それでも収量はほぼ同じだから効率がいいと思いますよ」。

また、生育中期の溝切り作業も健苗づくりに欠かせない作業です、病気に強く、健全な太い株に育ちます。ほ場管理(ガス抜き)にも役立っています。

組合で作る米は「きりさわ米」という名で販売されています。農薬と化学肥料を50%



健苗の育成に溝切り機も導入

カットしている特別栽培米で、あぜ道でも除草剤を使わず、大変手間がかかりますが、手刈りにもこだわっています。できるだけ自然に作る減農薬米に注目が集まり、人気が出ています。

後継者育成のためにも魅力的な農業を

すばらしい理念を掲げて米作りをしている組合ですが、問題は後継者。

「私は親が農業をやっていて、サラリーマン時代も手伝っていたから見よう見まねでできましたが、今の若い人はなにも知らない。そういう子どもたちに教えるのは簡単なことではありません。そもそも農業をやるという若い世代がいまいませんからね」。

それでも、組合には若い世代が芽生えつつあるとか。「今、新潟大学を卒業して農業体験をしそのまま組合に就職した子がひとりいます。彼がやる気になってくれて仲間に入ってくればありがたいですね」。

組合を設立した目的のひとつは後継者問題でした。後継者を育てて集落の土地を守る。それが組合設立の大きな目的です。

しかし、組合を存続させるためには受託もしなければなりません。周辺には請負作業をする組合が10以上もあるのですが、青柳さんは効率化のためにはそういう組合と合併することも考えているそうです。

「後継者を育てるためにも、減農薬栽培など若者の心をとらえることをしなければね。それに機械化を推進して若者を呼び込むつもりです」と青柳さん。将来を見据え、担い手育成に力をそそいでいます。



紫蘇と大豆使った特産の「やたらみそ」も好評発売中

三波春夫記念館

国民的歌手である三波春夫が生まれたのは、長岡市塚野山。当時は塚山村と呼ばれたこの村で、歌がうまいと評判だった三波少年は、13歳のときに上京し、米屋や製麺所で働きながら歌の勉強をし、16歳で浪曲学校に入学、寄席や舞台上で浪曲を歌いながら修業を重ねました。戦後、浪曲から歌謡曲に転身し、昭和32年「チャンチキおっけさ」でデビュー、その後、「東京五輪音頭」「世界の国からこんにちは」などの名曲を遺し、紫綬褒章や旭日小綬章を受章し、2001年に逝去しました。彼が残した「お客様は神様です」の言葉はあまりに有名。彼をしのんで同市塚野山に「三波春夫記念館」が残されています。



担当セールスマン紹介



三菱農機販売(株)長岡営業所 所長 佐藤勇

青柳さんの機械の知識はプロ級。あれこれ製品を薦めて買ってもらおうというカタチではなく、青柳さんの農作業や経営の状況を見ると、これが必要ではないかと、どんな機械がお客様の利になるかで機械導入を考えています。青柳さんの担い手育成にも協力していきたいと考えています。

NEW
MACHINERY
01

三菱コンバイン
V221・322・324/V325A/V335A・435A

三菱独自の技術できれいな選別を実現 /

機能を満載したベストコンバイン新登場!



Point 2

使いやすい操作系

※一部非対応機種やオプション機能もございます。

左サイドパネルに自動化スイッチを機能ごとにまとめて集中配置。
作業手順もラベルで分かりやすく表示し、誤動作を防ぎます。

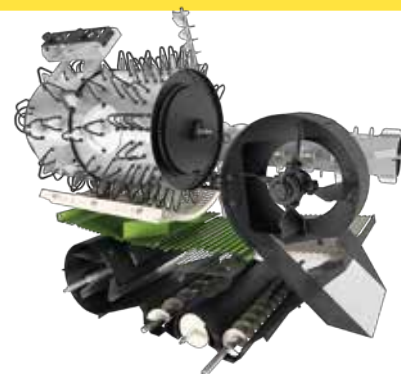


1234で刈取スタート。ラベルの1234の順に操作すれば簡単に作業をスタートできます。

Point 1

三菱独自

脱こく核技術で
きれいな選別



- 増速ツインこぎ胴 (V325A/V335A・V435A)
- ダイヤモンド受網
- トリプルダイレクト排塵
- 選別自動MAC-S (V325A/V335A・V435A)
- 撥水加工揺動流板
- 送塵量自動調節

Point 3

ニューツイン ハーモニー搭載

刈取搬送とフィードチェーンが車速に同調し、搬送稲の層厚を一定に保つことで安定した刈取・脱こく性能を発揮します。

NEW
MACHINERY
02

作業機
RUBBER TYPE DISC HARROWS

1台で畑から水田まで、高コストパフォーマンス /

耕起作業を大幅にスピードアップ

作業
速度 7~15 km/h
土耕機最速*

*2020.3 当社調べ

Point 1

5つの作業を1行程で行える

刻
む

均
平

鎮
圧

破
砕

混
和

Point 2

注油いらずの 花形大径ディスク

土壌への刺さり込みが良く、土をしっかりと混和します。注油も不要でメンテナンスが楽です。



Point 3

速くてきれいな仕上がり

優れた粉碎性。また、各ディスクを支える弾性ラバースプリングが過負荷安全装置としても作用するので、石の多いほ場でも安心です。



残渣物が
詰まらない!

作業が
省力化
できる!

燃料費が
削減できる

小規模農家や中山間地の田植えにおすすめ /

コンパクトで使いやすい低価格4条植



Point 1

セルスタートで
簡単始動

Point 2

コンパクトで
軽トラック積載OK

Point 3

優れた前後バランスで
安定作業

Point 4

ワンフロートで
きれいな植付

使いやすさにこだわった抜群の機能性

メンテナンス性に優れた
バッテリーを搭載整地精度の高い
ワンフロートを装備スピーディな
ロータリ仕様も準備広々ステップで
作業性アップ&安心作業

ASUMA 掲示板

農業目線でチェック!

SDGs(エスディージーズ)のススメ

2030年に向けて世界を変えるための17の目標

国連が提唱している「SDGs」(エスディージーズ)とは、持続可能な社会をつくるための、世界共通の目標のこと。2030年に向けて、右の17の目標が掲げられています。社会問題や環境問題は農業と深く関わるもの。三菱マヒンドラ農機も、環境性能の高い製品や自動運転などの高効率機械の開発を通じてSDGsに取り組んでいます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

SDGsの取り組み

日頃から「農業がずっと続くにはどうしたらいいか」を意識して過ごすことが、SDGsに向き合うことにつながります。

生分解性マルチを使う

微生物の働きで水と二酸化炭素に分解される生分解性プラスチック。そのまま鋤き込めるため回収を省力化して労働効率を向上できます。また、プラスチックの排出抑制につながるため、イメージアップや価値向上も実現。



再生可能エネルギーを使う

太陽光、風力、地熱、バイオマス(家畜排出物、廃棄物等)、小水力(水車)など農山漁村に豊富にあるものをエネルギーに転換して使うことも、環境負荷や廃棄物を減らすことにつながる、SDGsを意識した取り組みです。



燃費のいい農機を使う

低燃費で高効率な農機を導入することも、SDGsの一環。自動運転機能や高齢者・女性にも使いやすい機械の導入などにより多様な人が農業に従事できるようになると、雇用も増え、生活保障も向上し、農業の社会的価値が向上します。



SDGsに向き合うとさまざまなメリットがあります

会社の
信頼度が増す農業の社会的
価値が上がる自然災害を
回避できる地域産業を
持続できる

参考文献：外務省「SDGsとは?」/農林水産省「SDGs×食品産業」/マイナビ農業 農業ニュース「SDGsと農業 今世界が注目するSDGsとは」/農林水産省「生分解性マルチの活用事例」

ASUMA ごはん讃歌

みやま
三山ひろしさん



1980年9月17日高知県生まれ。
2009年、デビュー曲「人恋酒場」が10万枚を突破し日本レコード協会ゴールドディスクに認定。2015年よりNHK紅白歌合戦に連続出場。安心感と活力を与える声は「ビタミンボイス」といわれる。新曲「北のおんな町」好評発売中。

3つの頃から「おきやく」で歌う

生まれ故郷の高知県南国市は農業の町。わが家もシシトウやショウガを育て、農機を持っている大きな農家も周囲にありました。農作物を譲り、譲られ、地元にいる頃はスーパーで野菜を買った記憶がありません。

土佐弁では宴会のことを「おきやく」といいます。故郷でも、農繁期を終えた農家が集まっては「おきやく」をしていました。僕はその「おきやく」で3つの頃からカラオケ三昧です。レパートリーは、祖母が子守歌替わりに聞かせてくれていた春日八郎さんや三橋美智也さん。小さな子どもが流行り歌を歌う様子に、大人たちも盛り上がったのでしょう。拍手が嬉しくて、3つ4つの頃から「演歌歌手になる!」と心に決めていました。

周囲に褒められながら育ち、高校生になってNHKのど自慢に出場。ところが、自信満々で歌った『雪国』はまさかの鐘二つ…。あまりのショックに、それ以来、歌が歌えなくなってしまったのです。

忘れられない、まかないの味

夢破れ、地元で就職した僕を見て、心を痛めた祖母が勧めてくれたのが詩吟でした。やがて詩吟で実力が認められ、大会を勝ち進めるようになり、お師匠さんからはプロの吟詠家というお話しも…。しかし「同じ歌うなら、やっぱり演歌がいい!」と、歌手への夢が再燃。NHKのど自慢に二度目の挑戦をして、チャンピオンになったのを機に、25歳で上京を決意します。

上京して紹介してもらったバイト先が、偶然にも歌手・松前ひろ子さんのライブレストランのウェイターでした。そのご縁で師匠の中村典正先生に会い、弟子入り。ウェイターをしながら音楽修業の日々が始まります。

当時は、同じビルの和食店が作ってくれたまかないのおかげで、食いつなぐことができました。まかないですから決して豪華ではありませんが、素材にこだわりのある店でしたので、余りものの魚や野菜を使った料理は、どれも本当においしかった。休日にはおいしい米でおにぎりを作って持ち帰ることも…。命をつないでもらった、忘れられない味です。

苦しい時代に、頑張る力を届けたい

28歳のデビュー曲『人恋酒場』が1年以上をかけて10万枚を突破。自分を拾い上げてくれた師匠や助けてくれた皆さんに恩返しをしたい一心で、1日に何軒もスナックやカラオケ喫茶を回り、歌い続けた結果でした。念願の紅白歌合戦にも5年連続で出場し、2020年1月には明治座で初座長。公演を終えた矢先に、コロナ禍で社会は一変しました。

いま大変な思いをされている農家さんや漁師さんと同じように、僕が歌わないと、バンドさんや舞台技術さん、興行に関わるあらゆる方々に影響が出てしまいます。皆が苦しい時代、僕は歌手を生業にしていますが、汗を流して人々に何かを届けるという仕事は、皆さんとまったく同じです。

「ああ、三山も頑張っているから俺も頑張ろうかな」と活力につなげていただけるよう、土地や生活に密着した歌を歌い続けます。

こぼれぜなし



けん玉といえば三山さん。でも、始めたのは歌手デビュー後のこと。ファンとの交流イベントで世代を超えて楽しめるようにと始めたけん玉が、紅白歌合戦でのギネス挑戦につながりました。

ASUMA 読者広場

当たるといいな

編集部では楽しいプレゼントが当たるクイズをご用意しました。次の中から三菱農業機械のロングライフ保証の期間を当ててください。

A 半年間 B 1年間 C 2年間

お答えはハガキで

①クイズの答え ②住所・氏名・年齢 ③その他ご意見・ご感想を書いて下記の宛先までご応募ください。

抽選で **三山ひろしさんの色紙** と **三菱ブルゾンとキャップ** が当たります。

ご応募は
こちらへ 〒340-0203 埼玉県久喜市桜田2-133-4
三菱マヒンドラ農機(株)ASUMA編集部

応募締切:2020年11月30日必着

三菱農業機械のトラクタ・田植機・コンバインの愛称はASUMAです。ASUMAとは安全作業(Anzen)、安心品質(Anshin)、明日(Asu)の農業をサポートするという意味が込められています。また、ASUMAブランド製品にはロングライフ保証「安心の2年間保証」*も付帯しており、ユーザーの皆様の好評をいただいております。

※一部対象外製品もございます。

三菱ブルゾンと
キャップのセット



当選おめでとう
いっしょに楽しみましょー

前号(ASUMA16号)の当選者
色紙は大川栄策さんの
色紙も当選

入江紀男様/京都市中京区
井上江梨子様/静岡県富士見市
中西三千男様/奈良県奈良市
鎌田良樹様/京都府相楽町
高橋観立様/岩手県奥州市

本 社 島根県松江市東出雲町揖屋 667-1
☎ 0852(52)2111(代)

東京事務所 埼玉県久喜市桜田 2-133-4 ☎ 0480(58)7050

販売会社 三菱農機販売株式会社
本社 埼玉県久喜市桜田 2-133-4 ☎ 0480(58)9524

北海道支社 ☎ 0123(22)1234
東北支社 ☎ 022(207)3711
関東甲信越支社 ☎ 0480(58)9521
中部支社 ☎ 0776(27)3078
西日本支社 ☎ 0869(24)0820
九州支社 ☎ 0942(84)1888



www.mam.co.jp

三菱マヒンドラ農機